より確かで深い学びへの誘い『学びを広げる』の多様な機能

●福井大学教育地域科学部　松友一雄

『学びを広げる』と題した二冊目の教科書は、『小学校の国語』の兄弟である。

この二冊は、それぞれに異なる働きを持っているが、相互に結びつくことによって、これまでにないことばの学びを実現することができる。そのいくつかの特徴をここでは紹介したい。

学習者の疑問や意欲に対応する

日々の学習の中で学習者がふと感じる「なぜだろうか」という疑問や「もっと知りたい」という欲求を逃さず、学習へと導くことは、主体的な学習習慣を育むチャンスである。二冊目の教科書である『学びを広げる』は、そうした学習者の心の動きに寄り添えるように作られている。例えば二年生の「言葉を覚えよう」は、学習者が「もっとたくさんの言葉を知りたいなあ」と感じたときに、一人で読んでも深い学習に誘えるように作られている。様々な辞書が学習者の意識よりも細やかな形で提示されており、辞書の種類が体系的に理解されることと同時に、学習者自身の疑問がより詳細に深化していくことをねらっている。

第2学年「言葉を覚えよう」

言葉の使い方を明確に示す

国語の学習だけではなく、他の教科の学習の中でも「言葉を使う」場面が増えている。学習者の、「どうすればいいの？」という疑問に対して、方法や手順を簡潔に示し、学習者が実際に言葉を使えるようにサポートできるように作られている。

三年生の「アンケートを活用しよう」では、アンケートの取り方やアンケートの整理の仕方など実際に学習者が「アンケートをする」際に必要となる方法がわかりやすく示されている。さらにアンケート用紙やアンケート項目の作り方なども視覚的に示しており、必要なときにさっと見てすぐに使えるように作られている。そのため、国語以外の教科の学習の中でアンケートを行う場合も、教師がこのページを示すだけで、学習者自身が簡単に活用することができる。

まつとも　かずお　福井大学教育地域科学部准教授。ことばの力の具体的な形成過程を明らかにし，より効果的な授業・学習のあり方を模索している。また，サイトを立ち上げて学校現場への多角的な情報支援に取り組んでいる。（http://www.jile-labo.com/）

言葉の奥深さや伝統への導き

学習者が生活の中で目にしたり使ったりしている言葉に向き合い、その意味や価値について考える学習は、言語感覚を養うとともに、言葉の可能性や価値を発見する良い機会となる。

四年生の「ユニバーサルデザインってなに？」では、生活の中の様々な事物を「ユニバーサルデザイン」という言葉を用いて認識する学習が用意されている。

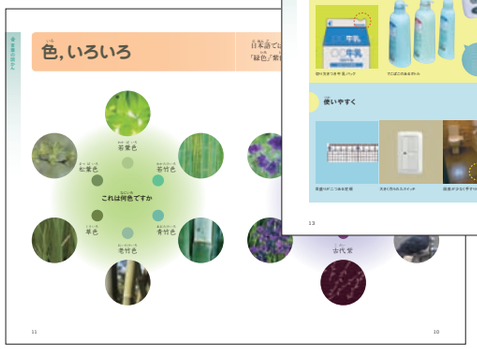
また、「色、いろいろ」では、伝統的な色の呼称が微妙な色の違いとともに示されており、伝統的な言語文化に自然に出会うことができる。

また、各学年の学習に深く関わる「学習語彙」を示すことで、国語の学習そのものに対する理解を深め、より主体的な学習意識を形成することができる。

多様な読書への誘い

小学生の読書生活を絵本のある生活にしたいという願いから、絵本を紹介するページを置いている。また『小学校の国語』においても、各教材の後に読書案内を示し、「あまんさんの部屋」では児童文学へと学習者を導いている。

また、学習者自身がこの本をふと手にして、何気なく読み始めてみることができる教材をいくつも用意している。休み時間や自習の時間などちょっと空いた時間に手元に読むものがあることが大切と考えるからだ。



第4学年「色，いろいろ」

第4学年「ユニバーサルデザインってなに？」

学習者のための本

全体を通して、この『学びを広げる』は、写真や絵、図表など視覚資料がふんだんに使われている。「ひと目で分かる簡潔さ」を重視しているのは、この本の使い手が学習者自身であることを願っているからである。

第5学年「不思議な絵本」